◆◆◆

令和２年度　ふるさと教育推進事業

浜田市内小学校・中学校

特色あるふるさと教育事例集

小学校　16 校

中学校　９校

◆◆◆

浜田市教育委員会　生涯学習課

令和２年度　特色あるふるさと教育事例

（小学校）

学校	学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点	頁
原井小	5	総合	浜田の魅力を伝えよう	ふるさとの魅力を発見し、愛着と誇りをもつ	1
雲雀丘小	5・6	音楽	和楽器の魅力に触れよう	地域にも和楽器奏者がおられることを知り、その方から学ぶことで、和楽器をより身近に感じることができる。	2
松原小	6	理科	土地の作り ～地層見学をしよう～	畳ケ浦の地層を見学し、郷土への愛と誇りを深める。	3
石見小	1	生活 図工	石見かぐらにしたしもう	石見神楽に親しみ、地域のよさを実感する。	4
美川小	4	総合	ふるさと美川を守るために	周布川と自分達のくらしとの関わりについて調べることを通して､ふるさとへの愛着や誇りをもてるようにする。	5
周布小	4	総合	周布川について調べよう	地域の人と交流しよう 地域の自然を体験しよう	6
長浜小	1	生活	むかしからのあそびをたのしもう	地域の方に昔からの遊びを教わったり一緒に遊んだりする中で、地域の方のあたたかさ、昔遊びのよさを知る。	7
国府小	2	生活 国語	もっとなかよし　まちたんけんインタビュー	地域のよさに気づき、地域の人や場所への愛着を深める。感謝の気持ちを伝える。	8
三階小	4	総合	みんなに優しい町について調べよう	福祉に対する理解を深める。自分にできることを考え、実際に活用できる力をつける。	9
雲城小	5	総合	小国田んぼの米作り	金城の良さや、そこに住む人々の思いに触れ、自分たちに何ができるのかを考える。	10
今福小	全	生活 総合	もち米づくり	季節の移り変わりを感じたり、地域の自然や人に親しみをもち、そのよさに気づいたり、進んで関わろうとしたりする。	11
波佐小	5・6	総合	波佐まるごとミュージアム～こと・もの・人・想い～	ふるさと波佐地域の歴時学習を通して、地域に対する愛着と誇りをもつことができる。	12
旭小	5	総合	お米を育てよう	地域の人々の思いや努力に触れながら学び、ふるさとのよさを知り、誇りを持って生きようとする態度を育てる。	13
弥栄小	3・4	社会 総合	伝えよう弥栄の秘密	弥栄のひと・もの・ことについて発見し愛着を持つ	14
三隅小	3	総合	三隅の宝 西条柿のひみつ	ふるさとへの愛着と誇りをもつ	15
岡見小	5・6	総合	森の中の基地づくり 卒業・進級プロジェクト	ふるさとの自然に親しむ	16

※　総合：総合的な学習の時間

令和元年度　ふるさと教育推進事業

令和２年度　特色あるふるさと教育事例

（中学校）

学校	学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点	頁
第一中	2	家庭科	地域の子どもたちに絵本を贈ろう	幼児や地域の人への関心をもつことで、生徒の豊かなこころの成長につなげていく。	17
第二中	3	総合	自己の生き方と将来の職業について考える	ふるさとで働いておられる、３年生の保護者の方に来校していただき、その思いを語っていただくことにより、ふるさとを改めて知り、理解を深める機会とする。	18
第三中	2	総合	企業説明会（ジョブカフェ in さんちゅう）	本校のキャリア教育の一環として地元企業や職業についての理解を深め、ふるさとで働くことの意義や良さを知る。	19
第四中	全	総合	稲作活動	ふるさとの産業について知り、その中でも主たる農業について関心を持たせるだけでなく、主体的、協働的に取り組む生徒を育成する。	20
浜田東中	3	総合	キャリア教育 職業理解 「身近な生活につながる仕事」	地域の人とかかわりながら、地域にある素材を活用した学習活動を行うことを通して、豊かな人間性や社会性、表現力やひととかかわる力などを育む。	21
金城中	3	総合	郷土文化の継承	・地域の「ひと・もの・こと」の活用 ・ふるさとへの愛着や誇りの醸成	22
旭中	1	総合	ふるさと講演会	地域の発展のために活動する方々の話から、ふるさとの魅力や課題に気づき、ふるさとをより良くする方法を考える。	23
弥栄中	1	総合	弥栄の未来を考える～持続可能なまちづくりに向けて～	・地域との交流を通して、故郷に愛着をもち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えを持ち発信する力を育てる。	24
三隅中	全	国語	みすみ習字 書き初め会	みすみ習字という伝統文化を受け継ぎ、発展させる意欲を持たせる。	25

※　総合：総合的な学習の時間

学校名	浜田市立原井小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間	浜田の魅力を伝えよう	ふるさとの魅力を発見し 愛着と誇りをもつ

①取組の概要

本校の近くには浜田市の漁業を支える浜田港があり、水産業に携わっている家庭の児童も多い。

「浜田市の魅力は？」と問いかけて、ウェビングマップで考えたところ、「水産業」に関るキーワードが数多く出てきた。浜田市の水産業と一言で言っても様々な捉え方があるため、まずは抱いている疑問や調べたいことを出し合い、そこから関心のある事柄にグループで分かれて学習を進めた。

〇課題の発見（気付く）

「魚の調理法や栄養」「魚の捕り方」「捕った魚の行方」「どんちっち三魚が有名なわけ」など、様々な視点から８つの疑問について、図書資料やインターネットの情報などを活用して調べ学習を行った。そこから分かったことや考えたことを、「浜田の魅力を伝えよう～中間発表会～」において全員で共有した。

〇課題の設定（気付く）

それぞれのグループの発表を受け、「浜田の魅力＝水産業」というイメージは果たして本当なのかという疑問が生まれた。そこで、「本当に浜田は水産業が有名なのか」という共通の課題を設定し、新たな観点から学習を進めることとした。

〇課題の解決（考える）

課題を解決するために、様々な方（※１）から話を聞いたり情報を収集したりして、浜田が水産業の町であるという根拠を各自が新聞にまとめた。

※１：浜田水産事務所専門水産業普及の方、学校給食センター学校栄養士、　吉勝漁業の方

〇新たな課題の発見（創り出す）

学びを通して、浜田が水産業の町であることを誇りに思うとともに、水産業に携わる方の苦労と努力について理解を深めることができた。さらに浜田の水産業を有名にするために自分たちができる方法も考え、意見を交換し合った。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

〇本校の重点目標「気付き・考え・創り出す」に沿って学習を進めた。

〇児童の抱くイメージや疑問などの幅広い視点から課題を焦点化していくことで、段階的に、より関心・意欲をもって学びを進めることができた。

〇図書資料やインターネットの情報だけでなく、実際に仕事に携わる方の話や、浜田市が発行するパンフレット、浜田の海で捕れた魚などの地域資料を多く活用することで、学ぶ意義をより強く感じることができた。

③児童・生徒に見られた変容

児童は、以前から「浜田の魅力＝水産業」というイメージはもっていた。浜田市の水産業を支える方々と出会い、情報を収集することで、自分なりの根拠をもとに、「本当に浜田市は水産業が有名なのだ。」という実感をもつことができた。

浜田市の水産業をさらに有名にする方法を考える中で、地域のために自分ができることや将来の夢を見つける児童もいた。

学校名	浜田市立雲雀丘小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
５・６	音楽	和楽器の魅力に触れよう	地域にも和楽器奏者がおられることを知り、その方から学ぶことで、和楽器をより身近に感じることができる。

①取組の概要
・和楽器（琴、尺八）についての説明を受け、実際にその音色に触れてみる。
・琴を習っている児童の、演奏を聴く。
・実際に和楽器に触れて音を出してみる。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）
・専門に和楽器を演奏している地域の方からお話を伺うことで、和楽器をより身近に感じることができるようにした。
・琴を習っている児童の演奏を聞くことで、和楽器により興味がもてるようにした。
・実際に和楽器に触れることで、音色の美しさや演奏には様々な技法があることなどを、体験を通して学べるようにした。

③児童・生徒に見られた変容
・スピーカーを通した音ではなく、直接耳に入ってくる和楽器の音色の心地よさを感じ、和楽器のもつよさを感じ取ることができた。
・楽器についての説明を受け、楽器の素材や、音の高さによって楽器を使い分けていることなど、初めて知ることが多く、より和楽器に興味をもつことができた。
・自分たちも演奏してみたいという興味・関心が高まり、有意義な学びとなった。

学校名	浜田市立松原小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6	理科	土地の作り ～地層見学をしよう～	畳ケ浦の地層を見学し、郷土への愛と誇りを深める。

①取組の概要

・畳ケ浦を見学し、地層のでき方を学んだり、実際に化石を見つけたりした。

・それをもとに、学んだことや気付いたことを模造紙にまとめて発表した。

・日本の他の地層や化石についても調べて、理解を深めた。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・事前に畳ケ浦についての資料で、地層について学んでから見学に行った。

・地域の日本地質学会の会員の方を講師として招き、畳ケ浦の歴史や、地層の歴史について話していただいた。

・郷土への関心を高めるため、ハッピーシェルを見つけるといった体験的な学習を取り入れた。

③児童・生徒に見られた変容

・地層や化石のでき方についての理解が深まった。

・実際に見学や体験活動をしたことで、畳ケ浦のでき方や歴史、おもしろさなどを体感でき、地元への関心が高まった。

・日本のほかの地層についても調べ、畳ケ浦と比較したことで、畳ケ浦の特徴をより深く理解することができた。

学校名	浜田市立石見小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	生活・図工	石見かぐらに　したしもう	石見神楽に親しみ、地域のよさを実感する。

① **取組の概要**

○石見神楽についてのお話を聞く。
○石見神楽をしておられる地域の方から、蛇胴づくりを教わる。
○蛇胴のパーツごとにグループに分かれて創作し、つなぎ合わせて完成。

② **ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）**

○一人一人がしっかりと蛇胴づくり体験ができるよう、創作グループを少人数にした。
○石見神楽に触れた機会の少ない児童も創作への意欲がもてるよう、石見神楽の写真や実際に神楽に使用している物を見せていただきながら、お話いただいた。

③ **児童・生徒に見られた変容**

グループで協力し合って作業することにも慣れ、蛇胴が出来上がる頃には、地域の方ともすっかり親しくなり、石見神楽への関心も深まる様子が見られた。また、新たに神楽面等、創作意欲を増した児童もいた。

～児童の変容の様子がわかる資料として、学級便りの一部を掲載～

・作ってみたら、大蛇で踊ってみたくなりました。やり方を教えてくださったおかげで、みんなの気持ちを込めて作った大蛇が、もっとかっこよくなっている気がしました。
・長くて、かっこいい大蛇ができました。蛇胴作りをして、少し覚えました。でもこんなに大きい蛇胴が作れると思いませんでした。尻尾を作るのも大変だったし頭作りのグループも難しかったと思うけど、みんなと地域の方とで作った大蛇はかっこいいです。めちゃくちゃ、かっこいいと思います。
・銀色の紙を、一個飛ばしで貼るのが難しかったけど、みんなで大きい大蛇を作れて、よかったです。神楽のことが、もっと知りたいです。神楽の大蛇以外にも、いろいろ作ってみたいです。

学校名	浜田市立美川小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
４	総合	ふるさと美川を守るために	周布川と自分達のくらしとの関わりについて調べることを通して、ふるさとへの愛着や誇りをもてるようにする。

①　取組の概要

・周布川について資料や聞き取りを通して調べる。
　（川の特徴、水質、植生、暮らしとの関わり）
・周布川の生き物調べ（水生生物）を行う。
・川の環境を守るための地域の取り組みを、聞き取りを通して調べる。
・川の環境保全のために自分達にできることを考え、実践する。（ポスター作り）
・学習して分かったことや感じたことをまとめ、学習発表会で家族や地域の人に知らせる。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

コロナ禍で活動内容や範囲に制限が加わり、当初構想として考えていた活動ができないことも多かったが、可能な範囲で周布川に直接ふれたり、川に携わっている人とふれ合ったりしながら活動を進めたいと考えた。アクアス職員の山口さんが出前授業を受けてくださったり、水鳥公園を作って野鳥に餌付けをされている岡本さんの案内で野鳥観察をさせてもらったりしたことで、児童は高い意欲をもって調べ学習を進め、学習発表会で自信をもって発表することができた。

③児童・生徒に見られた変容

・本や辞典、資料で調べることに抵抗感のある児童が多かったが、この学習をきっかけに、自分で調べて分かったり課題解決したりする体験が増え、調べようとする意欲が高まった。毎日見ているのにあまり気にも留めていなかった周布川について、学習を進めたことで、四季の様々な景色や動植物の様子、地域の行事などについての関心が一層高まった。水鳥公園は事後に自発的に観察に行く児童も出てきた。
・水生生物の調査（支流の内田川で実施）、社会科の美川浄水場見学等によって、ふるさとの川の水質が誇れるものであることが分かり、その川の環境をずっと大切にしていこうとする思いが高まった。ポスターにもその思いが強く表現されていた。

【支流内田川での水生生物調査】

【周布川土手での野鳥観察】

学校名	浜田市立周布小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	周布川について調べよう	地域の人と交流しよう 地域の自然を体験しよう

① **取組の概要**

周布川での観察や源流地点までの沢登りを通して、水の循環や川の多様な自然を体感し、友達と協力したり、地域の方々と関わったりしながら難関を乗り越える。

② **ふるさと教育の視点をもった授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）**

周布川調査の単元の一部として、他の学習活動と関連させながら取り組む。
社会の「水はどこから」や、理科の「水の循環」の学習と関連させて学習する。

③ **児童・生徒に見られた変容**

自然の豊かさを感じ、自然を大切にしていきたいという思いをもつことができた。
地域の方々との交流を通して、感謝の念を抱くことができた。
友達と協力して沢登りに取り組むことで、人間関係を深めることができた。

学校名	浜田市立長浜小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	生活科	むかしからの　あそびを たのしもう	地域の方に昔からの遊びを教わったり一緒に遊んだりする中で、地域の方のあたたかさ、昔遊びのよさを知る。

① **取組の概要**

・昔から伝わる遊び（けん玉、竹馬、めんこ、羽根つき、あやとり、お手玉、こま）に使われる道具や遊び方を知る。
・自分がやってみたい遊びを考える。
・地域の方をお招きし、自分がやってみたい遊び（２種類）の遊び方のこつを教えていただいたり、一緒に遊んだりする。
・感想や気付いたことをまとめ、発表する。
・地域の方に教えていただいた遊び方のこつを意識して遊んだり、遊び方のこつを友達に伝えたりする。

② **ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）**

・活動の感想や、お世話になった方へ感謝の思いを手紙に書いて送った。
・振り返り活動の際には、長浜小学校区に住んでおられる方の中には、昔遊びの得意な方がおられること、その遊び方を優しく教えてくださる方がたくさんいらっしゃることを再確認できるように指導した。
（自分たちが住む地域には、こんなにすごい人がおられる、という喜びや、尊敬の念　など）

③ **児童・生徒に見られた変容**

・進んで地域の方のもとを訪ねたり、積極的に挨拶をしたりするなど、地域の「人」に関心をもつことができた。
・目上の方と接するときは丁寧な言葉遣いをすることや、活動の中で「よろしくお願いします。」「ありがとうございました。」などの挨拶をすることができた。

・手本を優しく示してくださいました。

・玉が安定する方法をアドバイスしてくださいました。

・コツを教えていただきながら何度も練習しました。

・お別れの時は、児童が自然に手を振り始めました。

学校名	浜田市立国府小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	生活科 国語科	「もっとなかよし　まちたんけん　インタビュー」	地域のよさに気づき、地域の人や場所への愛着を深める。 感謝の気持ちを伝える。

①取組の概要

＜日　時＞令和２年９月　唐鐘・下府・上府地区

＜参加児童＞　　国府小学校２年生児童　４０名

＜活動内容＞　・店内や施設内の見学（中止）

・働いておられる方、地域で活動しておられる方への質問

＜活動の流れ＞

- 校区の「魚屋さん」「商店」「福祉施設」「駐在所」「公民館」へ質問する内容を考える。
- タブレットでビデオレター（インタビュー）を撮影する。（児童・担任）
- お店や施設の方々にビデオレターを見てもらい、質問したことに答えてもらう様子を撮影させてもらう。（地域コーディネーターさんが撮影）
- 答えてもらった動画を学校で見て、ワークシートにメモする。
- 国語科「この人を紹介しよう」の単元で、メモをもとに紹介文を書く。
- 国語科「ありがとうを伝えよう」の単元でお礼の手紙を書く。

【ビデオレター】　質問と返事

【公民館とリモート】

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 児童が直接見学に行き、インタビューをする交流は密になるのでできない。（現状把握）
- 担任が「ビデオレター」での交流を思いつく。（アイディアを出す）
- 公民館の地域コーディネーターに相談する。（相談をする）
- コーディネーターが学校と現場の方々の間に入り、タブレットの受け渡し、現場での撮影の役割をする。（役割分担・協働）
- タブレットやリモートなどＩＣＴを活用する。（情報機器の活用）
- インタビューの仕方、紹介文やお礼の手紙の書き方を国語科、生活科で指導する。（合科的指導）

③児童・生徒に見られた変容

- ビデオレター撮影ではグループで何度も練習をしたり、見返して取り直したりしていた。
- 調理場やバックヤードなど普段見ることができない場面では停止したり、拡大したりしてその技や工夫を丁寧に見ることができ、児童は興味関心をもっていた。
- 紹介カードやお礼の手紙に「今度出会ったら「すごいですね」「ありがとうございます」と言いたい」「自分もやってみたい」などねらいにせまる児童の思いが感じられた。

学校名	浜田市立三階小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	みんなに優しい町について調べよう	・浜田市の福祉に対する取り組みや、障がいのある方の話を聞くことで、福祉に対する理解を深める。 ・だれもが安心して暮らすことのできる町を目指して、自分にできることを考え、実際の生活に活用できる力をつける。

① 取組の概要

- ユニバーサルデザインやバリアフリーについて調べることを通して、生活の中の様々な場面で福祉にふれていることを知る。
- 車いす体験やアイマスク体験を通して、介助者と被介助者の両方の気持ちについて考える。
- 浜田市役所の方の話や、障がいのある方の話、発達障がいのある子どもを支援している方の話を聞くことで、障がいとはどういうものかについて知る。
- 調べたことをもとに、福祉について分かったことや、これから自分たちがどのように福祉にかかわっていきたいかについて発表する。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 地域にある総合福祉センター内の浜田市社会福祉協議会の協力を得て、体験的な活動を取り入れながら、福祉について具体的に学ぶ場を設定した。
- 浜田市役所地域福祉課の方を中心に、発達障がいのある子どもを支援している方や、浜田市在住で実際に身体障がいのある方に来校していただき、具体的な話をしていただく場を設定した。

③ 児童・生徒に見られた変容

- 学習する前のアンケートでは、子ども達にとって「福祉」とは自分の生活と少し遠いところにあるように思えていたようであるが、学習を通してとても身近なものであるとともに、自分の生活にも大きく関わっていることに気付いた。そして、自分の生活をより豊かにしていくため、そして誰もが暮らしやすい浜田市を実現するためにできることを考えたいという思いをもつことができた。

学校名	浜田市立雲城小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間	小国田んぼの米作り	金城の良さや、そこに住む人々の思いに触れ、自分たちに何ができるのかを考える。

① 取組の概要

金城町小国地域はおいしいお米が収穫できる地域として知られている。また、学校の統合により旧小国小学校区の児童は雲城小学校に通学をしている。学校がなくなった地域の方々が、子どもたちとの活動を楽しみにしておられること、小国で田植えや稲刈りなどの体験を地域の方々と一緒にすることで地域の方の思いを知ることができること。さらに、小国のお米がおいしい秘密をさぐることでも「ふるさとのよさ」を実感できると考えている。また、ふるさとの宝として、小国のお米の良さをPRしたり、活かそうとしたりする活動を通して、地域貢献の意識を高めることにもつながると考え本活動を実施した。子ども達にもその思いを伝え、金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、自分達に何ができるかを学んでいく学習を年間通して実施した。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・小国のお米を大切に育てておられる地域の方々と一緒に米作りの体験をすることを通して、地域の方の思いや願いに触れながら、「ふるさとの宝」を再認識できるようにした。
・自分たちが学んだふるさとのすばらしさを、ミニ学習発表会で保護者に伝えた。その日は、別の会場で小国のお米（白米・玄米・米粉）の販売も行った。販売に向けての準備として、お米の袋のデザインやお米のネーミングを自分たちで考えたり、お米の計量をして袋に詰めたりもした。
・収穫したお米は食生活改善推進員さんとの郷土料理作りの際、地元の手作りみそを使ったみそ汁と一緒に「浜田の海で生活する会」の方と作った藻塩を入れたおにぎりにして食べた。
・外国語活動に「米粉を使ったピザを作ろう」という活動を取り入れた。小国のお米を米粉にしてピザ生地にし、思い思いのトッピングを考えたり、オリジナルの米粉ピザレシピを考案したりして地域にPRした。

③ 児童・生徒に見られた変容

・地域の自慢としてお米を大切に育てておられる地域の方の思いを感じ、ふるさとのよさとして自分の言葉や表現方法でPRをすることができた。
・小国の米の良さを積極的に保護者や教職員、在校生に伝える活動ができた。
・小国地域でとれたお米のよさや、お世話になった地域の方に対する感謝の気持ちを学習発表会の発表やお米の販売の場で伝えることができた。

田植えの代わりに観察に

地域の方と稲刈り体験

米粉をつかったレシピ開発

学校名	浜田市立今福小学校		
学年	**教科等**	**単元名**	**ふるさと教育の視点**
全校	生活科 総合的な学習の時間	もち米づくり	田植えからもちつき会までの活動を通して、季節の移り変わりを感じたり、地域の自然や人に親しみをもち、そのよさに気づいたり、進んで関わろうとしたりする。

①　取組の概要

○もち米づくりの作業（田植え・稲刈り・脱穀）を行う。
　※今年度は田植えを中止
○稲の生長を観察する。
○もちつきをして会食を行う。※今年度は会食を中止
○地域の方と一緒にもち米づくりの活動を行う中で、作業の仕方や道具の使い方などを教えてもらっている。
○収穫と卒業を祝い、地域の方と一緒にもちつきをして会食をする中で、これまでお世話になった地域の方との親睦を深め、感謝の気持ちを伝えている。
　※今年度は会食を中止。感謝の気持ちを伝える場は設定。

②　ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

○公民館と地域講師と事前に綿密な打ち合わせを行い、この活動で子どもたちに身につけさせたい力やめざす子ども像について共有することに努めている。
○活動は、６年生のリーダーを中心に、縦割り班で行っている。
○活動を振り返る際に、みんなの前で自分の思いや感じたことを伝え合う時間を設けている。
○活動が終わると、お礼の手紙を書いて、３つの公民館に届けている。手紙には、気づいたこと、考えたこと、教えていただいたことなど、子どもの素直な気持ちが表れている。

③　児童・生徒に見られた変容

○地域の方が取り組んでおられる米づくりやそれにまつわる行事について興味をもち、各自課題をもって調べ活動（体験も含む）を行った。
○もち米をつくり、収穫を祝う会までの活動を通して、また、調べた情報を整理し共有する活動を通して、稲の生長や季節の変化、自然のすばらしさなど、どの学年もそれぞれに新たな気づきがあった。
○地域の方と一緒に活動を行う中で、活動する楽しさを実感することができ、改めて人とかかわり合うことのよさや大切さに気づく機会にもなった。

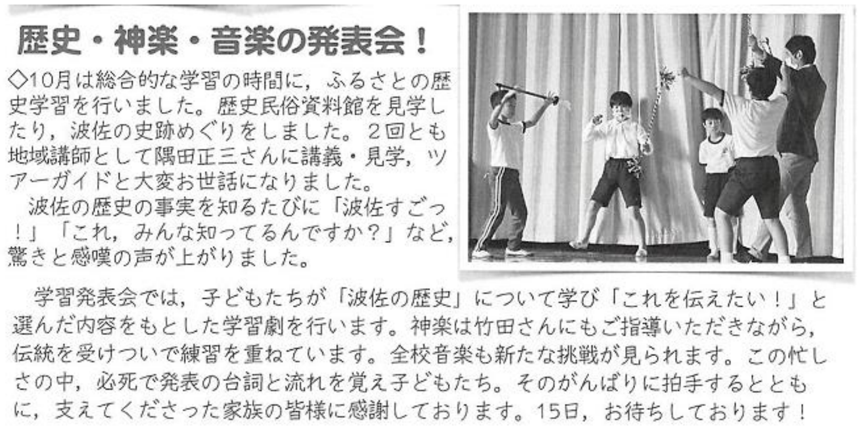
学校名	浜田市立波佐小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
５・６	総合的な学習の時間	波佐まるごとミュージアム ～こと・もの・人・想い～	ふるさと波佐地域の歴時学習を通して、地域に対する愛着と誇りをもつことができる。

①　取組の概要

今年度は、波佐の歴史の事実を知ることをめあてとして行った。

講師として、隅田正三さんを迎え、講義・見学・ツアーガイドを行った。

歴史学習を通して学んだことを学習発表会で劇風にして発表することができた。



歴史・神楽・音楽の発表会！

◇10月は総合的な学習の時間に，ふるさとの歴史学習を行いました。歴史民俗資料館を見学したり，波佐の史跡めぐりをしました。２回とも地域講師として隅田正三さんに講義・見学，ツアーガイドと大変お世話になりました。

波佐の歴史の事実を知るたびに「波佐すごっ！」「これ，みんな知ってるんですか？」など，驚きと感嘆の声が上がりました。

学習発表会では，子どもたちが「波佐の歴史」について学び「これを伝えたい！」と選んだ内容をもとにした学習劇を行います。神楽は竹田さんにもご指導いただきながら，伝統を受けついで練習を重ねています。全校音楽も新たな挑戦が見られます。この忙しさの中，必死で発表の台詞と流れを覚え子どもたち。そのがんばりに拍手するとともに，支えてくださった家族の皆様に感謝しております。15日，お待ちしております！

②　ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

ヒーロー
HERO

波佐小学校
３学級　学級だより
Ｒ２年　11月27日（金）
No.44　文責：中川貴如

ふるさとの心が刻み込まれる神楽
全身全霊で ふるさとをまるごとを伝えた学習発表

◇神楽を舞う子どもたちの姿が大きく見えました。積み重ねによる自信という大切な教えをもとに練習しました。本番までの過程を通して，ふるさとを心に刻んでいるように見えました。

波佐には，縄文時代～現代までの遺構がたくさん残っています。地域巡りで実感した子どもたち。その感動を劇で表しました。写真からも，声，表情，動き，ダンス等など，全身を使って表現している様子が伝わります。

波佐を「まるごと」ミュージアムにしたいという隅田正三さんの思いを子どもたちが感じられるようにしたかった。今年度最初に歴史学習で波佐の縄文時代や弥生時代ことを学習することからはじめた。そして波佐の歴史と日本の歴史を常に考えさせながら学習をすすめた。

「まるごと」をキーワードに考えながら見学をすすめることで、子どもたちの声でまとめることができた。

③　児童・生徒に見られた変容

一人ひとりが、どんな「まるごと」になるのかを考えながら調べ学習を進めることができた。学習発表会では、博士とこどもたちという設定で現在と未来に想いをもちながら、「波佐の歴史を語る学習発表会」となった。また、地域への誇りをもつことができた。

この発表会は、コロナ禍のために地域の方にお見せすることはできなかったが、学校だよりで紹介することができた。

学校名	浜田市立旭小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間	お米を育てよう	ふるさと旭で取り組まれてきた産業である「米づくり」について、地域の人々の思いや努力に触れながら学び、ふるさとのよさを知り、誇りを持って生きようとする態度を育てる。

①取組の概要

（１）「米づくり」が、地域で取り組まれてきた様子について知る。（社会科との関連）
（２）米農家の方から、作業の内容や時期、工夫や苦労について聞く。
（３）学校近くの田んぼを借りて、「米づくり」を体験する。
（４）バケツ稲で一人ずつ米の栽培をする。
（５）都川地区で棚田を見学し、地域で「米づくり」がどのように取り組まれてきたかについて調べる。
（６）坂本地区で米のブランド化に取り組む農業法人の方を講師に招き、米づくりへの思いを聞く。
（７）地域の米づくりについて学んだことをまとめ、発表する。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

（１）農家の方と直接会ってお話を聞かせていただいたり、田んぼでの農業体験や棚田見学などの体験活動の機会を設けたりし、児童が米づくりを身近なものとして感じられるようにした。
（２）社会科の農業についての内容と関連付けて学習することにより、地域で取り組まれている米づくりのよさや、食糧問題などについて考えることができるようにした。
（３）キャリア教育の視点から、米づくりを通して地域を活性化させる取り組みをしておられる方の姿から学ぶ機会を設けた。

③児童・生徒に見られた変容

（１）米づくりについて身近に感じ、積極的に調べようとする姿が見られた。
（２）地域の産業の歴史や今後の町づくりについて考えられるようになった。

学校名	浜田市立弥栄小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
３・４	社会科 総合的な学習の時間	伝えよう弥栄の秘密	弥栄のひと・もの・ことについて発見し愛着を持つ

① 取組の概要

・弥栄町について、地図、インタビュー、調べ学習、ゲストティーチャーの話等から学び、知ったことや考えたこと、呼びかけたいこと等をポスターやチラシにまとめて発信した。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・学習に効果的な方をお招きするために、公民館の地域コーディネーターと密に相談・連携した。また、発信についても公民館にご協力いただき弥栄町のいろいろな場所にポスターやチラシを置いていただくこともできた。

③ 児童・生徒に見られた変容

・普段、当たり前に暮らしている弥栄の町の良さを見つめ直し、知らなかったことに気づいたり、もっと深く調べたりして、弥栄の良さをたくさんの人に伝えたいという気持ちをもち、発信することができた。コロナ禍でも可能な外部との連携を探し、協力していただけたことで、学びが充実した。

ゲストティーチャー

作成したチラシなど

学校名	浜田市立三隅小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	三隅の宝　西条柿のひみつ	ふるさとへの愛着と誇りをもつ

① 取組の概要

６月：「歴史」「育て方」「作っている人」の３つのチームに分かれて調べ学習スタート

７月：白砂公民館主事の田城さん、柿農家の平木さんを招いて、ビデオを見ながら西条柿作りについて詳しく話を聞く

１０月：西条柿の収穫体験とJA美川選果場の見学

１１月：合わせ柿の試食と学習のまとめ

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・少人数グループを編制することで、１・２学期を通して主体的に活動に取り組もうとする児童の姿を引き出す。

・白砂公民館との連携を密にし、西条柿の栽培農家やJAいわみ中央にも協力してもらい、体験的な学習活動を行う。

・体験活動を多く取り入れ、実際に苦労や美味しさを感じ取らせる。

今年度はコロナ感染症対策で、摘果作業や浜田商業高校との柿クッキングはできなかったが、白砂公民館作製の「西城柿ビデオ」を教材にして出前授業を行うことができた。

③ 児童・生徒に見られた変容

・西条柿という三隅の特産品を知り、地域への愛着を感じ、誇りをもつことができた。

・地域の方とのかかわりが深まった。

・地域の行事に興味をもつようになった。

（今年度は柿祭りが中止となった）

学校名	浜田市立岡見小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
５・６	総合的な学習の時間	森の中の基地づくり ～卒業・進級プロジェクト～	ふるさとの自然に親しむ

① 取組の概要

これまでの経験を生かして、設営場所、必要な材料、調達の方法等を考え、地域の素晴らしさを生かした基地を作ることで、ふるさと岡見の自然の素晴らしさや地域の方の思いに気づくとともにふるさとを大切にしようとする心を育てる。

〇学校周辺の自然を生かした基地づくりの計画・追究活動
- ・岡見の自然を生かした安全な場所を選定する
- ・基地の構想
- ・必要な材料の洗い出しと調達について考える（地域への依頼）

〇森の中の基地づくり
- ・安全のための配慮事項について考える
- ・これまでの経験を生かして設営する
- ・感想発表

〇活動のふり返り
- ・ふり返り
- ・協力を頂いた方への感謝の表現

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・これまでの経験を生かしながら児童で考えた基地づくりをする中で、何気なく接しているふるさとにある身近な自然の素晴らしさを再認識させるようにすること。

・公民館（コーディネーター）に相談し、学校ではできない準備などの調達の協力を得たり、アドバイスをいただいたりする中で、見通しをもたせるようにすること。

③ 児童・生徒に見られた変容

・自分たちの考えた基地を作ることで、ふるさとの自然の素晴らしさに改めて気づくとともに達成感を味わうことができた。

・コロナ禍にあり、地域の方とともに活動したり、指導をいただいたりすることはできなかったが地域ならではの材料調達（楮の幹、孟宗竹）の協力を受けた。自分たちでは不可能なことを地域の方の力で可能になり地域の方への感謝の気持ちをもつことができた。

学校名	浜田市立第一中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	家庭科	地域の子どもたちに絵本を贈ろう	幼児や地域の人への関心をもつことで、生徒の豊かなこころの成長につなげていく。

①　取組の概要

・毎年３年生が家庭科の授業の一環で石見幼稚園を訪問し交流活動を行っている。今年度はコロナの影響で訪問が中止となった。本校生徒、石見幼稚園の園児も楽しみにしている活動であるので、その代わりとなる活動として絵本を製作し、贈ることになった。
・３年生４クラス、それぞれの学級を６班に編成し、子ども達にどのような内容の絵本を贈るか各班でテーマを話し合った。家庭科の授業で学んだ幼児の心、体、運動機能の発達、基本的・社会的生活習慣の習得等をふまえ、テーマを決定し、絵本の製作に取り組んだ。
・幼児の発達を助ける内容で、絵本の中に仕掛けを組み込むなど、飽きがこず、工夫して遊べる絵本を考えた。巻末に生徒から子どもたちへのメッセージを入れた絵本を完成させた。
・代表が石見幼稚園に絵本を贈呈した。

②　ふるさと教育の視点を持った授業（活動）に迫るための授業づくりのポイント（工夫）

・実際に自分が育った地域の子ども達に贈る絵本、子ども達が喜んでくれる絵本という具体的な目標を設定することで、製作意欲の喚起を図った。
・絵本づくりの事前学習として、自分の幼い頃の振り返りや、どのように成長してきたかを体感するため、心、体、運動機能の発達や、基本的・社会的生活習慣の習得を体験活動等も取り入れ、学習した。

【絵本のテーマ】
あいさつ　基本的・社会的生活習慣の習得
年中行事　ことばの習得　英語にふれる
コロナ対策　地震がおきたら　安全に身を守る
昔話　知育ゲーム　手先を器用に　など

③　生徒に見られた変容

学習前は、幼児が苦手だと答える生徒もいたが、学習を通して自分の幼い頃のことや、自分自身がどのように成長してきたかを振り返ることができたようである。「自分たちが育った浜田市の園児に贈る」という具体的な目標ができたことから、生徒たちは様々なアイディアを出し合い、子供たちに喜んでもらえるような絵本を考え、各班とも工夫を凝らした絵本を製作することができた。実際に自分たちが毎日通っている学校近隣の幼稚園の園児に絵本を贈ることで地域の子ども達にも関心が高まったようである。

生徒も改めて自分自身の成長や、これまでに自分に関わってきた家族、地域にも目をむけるとともに、学習活動の振り返りから、家族や周囲の人に対する感謝の気持ちが芽生えるとともに、自分の将来について考えていこうとする様子が見られた。

学校名	浜田市立第二中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
３	総合的な学習の時間	自己の生き方と将来の職業について考える	ふるさとで働いておられる、３年生の保護者の方に来校していただき、その思いを語っていただくことにより、ふるさとを改めて知り、理解を深める機会とする。

① 取組の概要

・地元で働いておられる保護者の方を招き、話を聞く。
・保護者としての、卒業を前にした生徒への思いを聞く。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・保護者の方にお願いすることで、身近な方からのお話に興味を持たせる。仕事について話す親御さんの姿を子どもに見せることで、普段見られない保護者の姿を知らせる。

・保護者の方の学生時代の話、現在の職業を志したきっかけ、その職業を通じての充実感、進路選択のアドバイス、中学生に望むこと、等を中心に話していただきふるさとを改めて知り、理解を深め、ふるさとで働く意欲を持つきっかけとする。

③ 児童・生徒に見られた変容

　学年末試験を終え、一息ついた２月末にお二人に来校していただき、お話を聞いた。義務教育終了を間近に控え、生徒一人ひとりが選んだ道を歩もうとしているこの時期に、改めてふるさとを見直すとともに、新しい場所で気持ちも新たにがんばっていきたいという思いが感想文の中に見られた。

学校名	浜田市立第三中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	総合	企業説明会 （ジョブカフェ in さんちゅう）	本校のキャリア教育の一環として地元企業や職業についての理解を深め、ふるさとで働くことの意義や良さを知る。

① 取組の概要

・説明をしていただく地元企業について、事前にＨＰやパンフレットなどで調べる。
・企業への質問内容をグループで考え、演習を行う。
・地元企業８社の担当の方から、グループごとに説明を聞き、考えた質問をすることによってふるさとで働くことの良さや意義を知り、今後の進路選択の一助とする。
・振り返り活動を重視し、どのようなことを学んだかを確認する。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・地元企業８社の説明を聞くことによって、友達と協力して事前の調べ学習を行い、ふるさとをあらためて見つめ直し、こらからの自分自身の生き方について、深く考えるような学習活動を行う。

③ 児童・生徒に見られた変容

・感染症予防で多くの制約がある中、生徒たちはとても真剣に話を聞きくことができた。
・様々な業種について知ることができ、自分の将来を考えるきっかけになった。
・働くことの大変さについて話を聞き、保護者の方への感謝を感じる生徒が多かった。
・地元にもたくさんの企業があり、地域のために貢献していることを知った。
・３年生になったら、職場体験学習で今回説明を聞いた企業に行ってみたいという生徒がたくさんいた。
・すべての生徒が最後まで話を真剣に聞き、多くの生徒はしっかりとメモを取りながら参加することができた。

学校名	浜田市立第四中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全校	総合	稲作活動	ふるさとの産業について知り、その中でも主たる農業について関心を持たせるだけでなく、主体的、協働的に取り組む生徒を育成する。

① 取組の概要

・学校田を利用して、田植え（５月）稲刈り（９月）を実施する（総合的な学習の時間）
・文化祭（１１月）で、加工品の販売を行う。（１１月）
・幼稚園生、小学生と合同でしめ縄づくり（１２月）を行う。（総合的な学習の時間）

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

四中校区コーディネーターや地域ボランティア、地域講師の方から教わったことを体験するだけでなく、生徒が自ら質問や話しかけたりしながら体験することでふるさとをより身近に感じられるように工夫した。

② 児童・生徒に見られた変容

生徒が主体的に地域ボランティアや講師に質問したり、話しかけたりする場面が見られた。また、小学生や幼稚園生にも声をかけて、いっしょに活動する姿も見られた。

学校名	浜田市立浜田東中学校		
学年	**教科等**	**単元名**	**ふるさと教育の視点**
３	総合的な 学習の時間	キャリア教育　職業理解 「身近な生活につながる仕事」	地域の人とかかわりながら、地域にある素材を活用した学習活動を行うことを通して、豊かな人間性や社会性、表現力やひととかかわる力などを育む。

① 取組の概要

地元企業８社の方を講師として招いて「ジョブカフェ」形式で活動を行った。コロナ禍のため、全体で集まらず、各クラスで　１　自社のアピールをする。　２　各事業所がブースに分かれ生徒の各班がそのブースを廻り、仕事についてのＱ＆Ａや話をしていただいた。

自己の適性・職業観・勤労観への理解を深めるとともに、ふるさとで働くことのよさを知ることができた。

② ふるさと教育の視点をもった授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・ふるさとで働くことのよさを知るために、地元企業の講師を設定している。
・話の中に浜田市の良さを盛り込んでいただいた。
・人と人が接するとき、どのようなことを意識するとより良い関係が築けるか考えさせる。

③ 児童・生徒に見られた変容

生徒は１年生のときに職場見学をし、職業に関して知識や理解を深めてきた。
2年生は職業体験を計画していたが、中止となったため、3年生では８つの地元企業の方を講師として招いて「ジョブカフェ」形式で活動を行った。

活動を通して、自己の適性・職業観・勤労観への理解を深めるとともにふるさとで働くことのよさを知り、自己の適性についても知ることができた。

自分が将来働くことを考え、職業に対する意識を高め、積極的に活動を進める姿が多く見られた。

学校名	浜田市立金城中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
３	総合的な学習	郷土文化の継承	・地域の「ひと・もの・こと」の活用 ・ふるさとへの愛着や誇りの醸成

①　取組の概要

地域での活動が停止している、郷土芸能「甚左衛門太鼓」を１０年前から中学生が習得し、継承していこうとする取り組み。

（１）　雲城公民館に指導者紹介依頼

（２）　地域指導者決定

・中学生の保護者世代が立ち上がり、まちづくり推進活動の一つとして太鼓保存会が結成され、中学生への指導が開始された。

（３）　練習期間９月～１１月中旬

・週１回２時間程度（総合的な学習の時間に神楽会館で）

（４）　学習発表会で演奏発表

②　ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・地域と課題とねらいを共有し、計画、振り返りの時間をもつなど連携を密にすること。

・生徒に課題解決への意識をもたせること

・生徒に地域からの期待感、地域に役立っている感覚を味わわせることで地域の担い手としての自覚と地域貢献への意識を高める。

③児童・生徒に見られた変容

・ふるさと金城の魅力を再発見できた。

・ふるさと金城を誇りに思うようになった。

・地域の方の期待に応えたい気持ちが芽生えた。

・積極的に地域に貢献しようとする気持ちが高まった。

学校名	浜田市立旭中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な 学習の時間	ふるさと講演会	地域の発展のために活動する方々の話から、ふるさとの魅力や課題に気づき、ふるさとをより良くする方法を考える。

①取組の概要

○地域の発展のために活動しておられる方々について、旭分室を通じて町内各公民館に問い合わせをし、講演してくださる方を紹介していただいた。
○学校の担当者から、講演会の趣旨や、話していただきたい内容などについて連絡した。
○生徒への事前指導として講演会について説明し、併せて話の内容や活動に対する思いなどについて質問したいことを考えた。
（質問内容は、旭分室経由で講師の方々に事前にお知らせした。）
○当日は３名の方に来校していただき、お話していただいた。
・ホタルの話　　　　　　【市木地区　榎本泰弘さん】
・旭温泉について　　　　【木田地区　吉川さゆりさん】
・やつおもて古墳について　【和田地区　芳川栄佑さん】
生徒にはワークシートを準備し、メモ、感想を記入し、事後に共有した。
○旭分室と講師の先生方には、礼状と併せて感想を抜粋したものを送付した。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

○講演してくださる方を探す際に、旭分室を通して各公民館に問い合わせていただくなど地域のネットワークを活用する。
○小学校での総合的な学習の時間の内容を確認したうえで、地域の良さの再確認や、新たな良さの発見にもつながるように意識して講演会の内容を計画した。

③児童・生徒に見られた変容

○事後の生徒の感想
「講演会を通して、自分の知らなかったことが知れてよかったです。ホタル・温泉・古墳のいろんなことが分かったし、いろんな人に知ってもらえるようにおもてなしなどをして、努力しているのですごいなと思いました。」
「今まで何となく過ごしていた旭のことを、今日とても詳しく知ることができてとてもよかったです。これからもっと旭について考えながら生活していきたいです。」

地域にあるものの良さや魅力だけでなく、関わる方々の努力や思いにも気づき、地域の方々に対する感謝や尊敬の気持ちを強くした生徒や、自分も地域のことをもっと深く知り、積極的に関わりたいと思う生徒が多く見られた。

学校名	浜田市立弥栄中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
１年	総合	弥栄の未来を考える～持続可能なまちづくりに向けて～	・地域との交流を通して、故郷に愛着をもち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えを持ち発信する力を育てる。

①　取組の概要

・「持続可能なまちづくりにむけてできること」「情報発信」というゴールをめざして、多様な「課題設定」に取り組めるように３つのテーマに関する学習に取り組んだ。
・公民館の幅広いネットワークを活用し、多くの人・もの・ことと出会い、個別の興味関心に応じた探求活動を行うことができた。そのおかげで、課題のゴールに向けて、具体的に自分の意見を持ち、まとめを成果として発表することができた。
・ICT活用教育を見通して、地元企業の方とリモート会議を体験することができた。

②　ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

例年取り組んでいる「弥栄の未来を考える」学習に、SDGｓゴール11を意識した「持続可能なまちづくり」という視点を持たせ、「社会に開かれた教育課程」を意識した実践を最終課題とした。

【共通課題】講話・体験等から、自分の探求的な課題を決定する。
・まちづくり・創業：IT技術でできること、地元資源を活かした働き方、生き方(講話･体験)
・環境・産業　　　：循環型林業の価値、地元で活躍する20代の方の思い（講話･体験･実験）
・防災・福祉　　　：58水害と29水害における被害と避難状況、炊き出し訓練・疑似避難体験（防災教室　体験・講話）

【個別の探求的な課題と成果】
・「弥栄の人と自然の魅力」プレゼン発表・ＰＶ制作
・「弥栄の森を守るためにできること」プレゼン発表
・「弥栄産木材を使用したベンチとごみ箱」の制作
・「命を守る防災」「知ることで守れる命」提案を含むプレゼン発表

「リモート会議体験」

③　児童･生徒に見られた変容
・地域の自然と人の魅力を再発見するとともに、人々とのつながりを持ち続けることの大切さに気付くことができた。
・校内行事で、地域に向けてできることを具体的に考え、提案を含む情報を発信することができた。学習の成果の一端を地域の行事で発表することができた。
・年末のおせち配色ボランティアに参加する生徒が増加した。

「防災教室　担架づくり」

「弥栄産木材でベンチづくり」

「『や市』での取材」

学校名	浜田市立三隅中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全学年	国語	みすみ習字　書き初め会	みすみ習字という伝統文化を受け継ぎ、発展させる意欲を持たせる。

①取組の概要

・地域講師をお招きし、実技指導を受けながら、筆遣い等を学び、書写技能の向上を図る。
・地域講師に作品を審査していただき、審査後に、各学級に作品を展示する。特別賞は、校内展示した後、地域の公民館やJAで展示する。
・準備、当日の司会進行、片づけ、展示作業を、生徒会の委員会活動で行う。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

・地域講師に、みすみ習字の歴史や受け継ぐことの大切さ等について話をしていただいたり、実技指導を行っていただいたりする。

③生徒に見られた変容

・国語科の授業において、１年間を通して「みすみ習字」の学習に取り組んできた。学習の成果を、校内で３回（１０月、１２月、１月）展示し、保護者に向けて文化祭での展示も行った。
・授業毎に、「〇〇の部分が前回より上手に書けるようになった」「もっと～のようにすれば良い字が書けるかもしれない」等、生徒自身の肯定的な自己評価や、次回の制作に向けた意欲的な発言を聞くことができた。また、校内に作品を展示することで、「〇〇さん、前よりも上手になってる」「〇〇さんのように書けるようになりたい」等、相手のよい所を見つけたり、お互いの作品を批評し合ったりする姿を見ることができた。
・１年間のまとめとしての書き初め会では、「良い字を書いて終わりたい」と、意欲をもって臨む生徒が多く、２時間の授業に集中して取り組むことができていた。地域講師の実技指導に真剣に耳を傾けたり、筆遣いを観察したりする姿も多く見られた。中には、自分の納得のいく字が書けるまで、何度も何度も書き直し、２時間で２０枚以上を書いた生徒もいた。
・３年生は、地域講師から「中学校を卒業しても、みすみ習字での学びをこれからの生活に生かしていってほしい」と聞き、よい締め括りの活動となったのではないかと感じる。１、２年生は、校内に展示された３年生の作品を見て、次年度に向けて意欲を高めている様子が見られた。